

平成 27 年 11 月 26 日

## 授業アンケート結果を受けての報告書について

高等教育推進機構長 新田 孝彦

北海道大学では、平成6年より全学教育科目の授業アンケートを実施するとともに、その結果を授業担当教員にフィードバックすることによって、授業改善に取り組んできました。しかしながら、アンケート結果に対して、個々の教員がどのように対応したか、どのような意見をもっているかに関しては、平成 17 年度の試行を除いて、公表してきませんでした。

一方で、近年、授業アンケート結果を踏まえて、PDCA サイクル(plan-do-check-act cycle)にしたがって、継続的に授業改善を行うこと、またアンケートに協力した受講学生への回答を通して透明性を確保することなどが求められています。そうした点を考慮しつつ、平成 26 年度、全学教育専門委員会の授業評価専門部会では、対応策を検討し、授業アンケートの結果については、各科目責任者が中心となって議論の上、報告書を作成し、高等教育推進機構のホームページ上に掲載することとしました。なお、授業科目のうち、一般教育演習、主題別科目、総合科目に関しては、科目責任者を中心に議論することが困難なため、個々の教員が報告書を作成することとしました。

そこで、平成 26 年度の授業科目について、該当する教員に報告書の作成を依頼したところ、27 科目 48 名から報告書が提出されましたので、上記の趣旨を勘案しながら編集の上、全学教育専門委員会の議を経て、学内に限定して、ホームページに掲載することとしました。

なお、掲載に際しては、科目ごとにまとめることとし、講義題目は明示せず、評点、順位、学部名、個人名についても、明記していません。また、内容についても、事前に担当者の了承を得たものに限って掲載しました。今後の授業改善などに役立てていきたいと思っております。

最後に、本授業アンケートの実施ならびに報告書の作成に際しては、関係各位に多大なる協力を得ました。ここに深く感謝申し上げます。

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【主題別科目】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名: 思索と言語					
1	・質問事項全般への回答	質問項目全般において、一定の評価を得たといえる。	授業では、板書とスライドとを効果的に使い分け、基礎的な事項はもとより、専門的な内容についても、平明に解説するよう、つとめている。また、論文指導という授業に照らし、レポートは添削の上、面談しながら返却するなど、きめ細かな指導を行っている。	特になし。	
2	・自由意見 「授業の発言する機会がもう少し多いとさらに学生の理解が深まると思います」		今年度の授業から、グループ討論の時間を設けるとともに、学生が発表する機会を増やす工夫を行っている。	特になし。	
科目名: 社会の認識					
1	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」	教員自身が興味を感じている題材・テーマを取り上げて、学問的な面白さを分かち合えるように講義した。	今後も、こうした姿勢を継続したい。	研究者は、自身が面白いから研究をしている。その研究内容や学問分野の面白さを伝えることが研究者の使命であろう。その際、できるだけ分かりやすい説明を心がけることが大切である。	
2	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやAV 機器の使い方が効果的であった」	毎回、ハンドアウトを配付した。ハンドアウトは、パワーポイントスライドの縮小印刷版である。配付資料はモノクロであるが、講義終了後は、カラー版のパワーポイントスライドの PDF ファイルを講義用 Web ページに UL し、DL できるようにした。また、必要に応じて、動画を視聴させ、できるだけ具体例を示すことを心がけた。	同上。	パワーポイントを用いる講義が増えているが、スライドを縮小印刷したもの等のハンドアウトを配付しないと、学生たちはスライドの内容をメモすることに終始してしまいがちである。学生が講義内容にじっくり耳を傾け、内容について咀嚼する時間的余裕が持てるよう、ハンドアウトを配付することが望ましいのではないかと考える。	
3	・自由意見 「具体例が多いし、先生がとても丁寧に説明してくれた。予習をしないとできないレポートを毎回出すことで予習を促し授業の理解を深めさせてくれた」	全学教育では期末試験の実施が難しい。このため、適正な成績評価を行うために毎回、リーディングアサインメントとその理解度テストを行った。教科書は指定したし、教科書の内容に沿って講義を進めたが、予習を前提としていることもあり、教科書の内容を掘り下げて、説明することを心がけた。また取り扱う事例などについても、教科書とは異なる切り口のもの、あるいは自身の研究に関連が深いものを選択するように心がけた。	同上。	成績評価を適正に行う方策のひとつとして、チェックポイントを数多く設けることが考えられる。本講義では、毎回の小テストあるいは小レポートと期末レポートで成績評価を行った。レポートの配付や回収に際しては、TA を活用し、教員の負担を軽減することができる。	

4	・自由意見 「入学当初はあまり経営学に興味はなかったが、授業が非常に興味深く、熱意にあふれたものだったので、最終的にはとれてよかった授業だと思えた」	本講義は、経営学のまわりの初学者を対象とするものである。当初は興味がない学生であっても経営学という学問に対して興味を持ってもらえたのであれば、講義の狙いは成功したといえるし、また教員として嬉しい思いである。	今後、一層の努力をしたい。	初学者にとってのハードルは、専門用語や独特の概念であろう。大学での講義である以上は、専門用語や概念をきちんと教える必要があるものの、できるだけ分かりやすく噛み砕くとともに、身近でとつきやすい具体例を示すことで理解が促進されると考えている。
5	・自由意見 「スライドの黄色系のパワポが見づらかった」	スライドの黄色系が見づらかったとの指摘を受けた。	カラー・ユニバーサルデザインをある程度考慮したスライド作成を心がけているが、教室の環境(スクリーンに日光や天井光が当たる)や着席位置などによって見づらい場合もあり得る。今後は一層配慮したい。	スクリーンを見づらい学生には、適宜座席を変更するなど促すようにしている。

科目名:科学・技術の世界

1	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加を促した」 ・自由意見 「総合討論が良かった。効果的だった」	・総合討論で提出レポートの作成方法や良い点などを示すことができた。 ・学生自身の意見を反映することに不足があった。	・H27年度はグループ形式で話し合い、発表を実施し学生参加を促した。 ・また、毎回授業の最後に、疑問点を示してもらい、下記のディスカッション日に答えるようにした。	
2	・自由意見 「総合討論は各テーマごとに実施が良かった」 ・自由意見 「発言を求める人には事前に通知があった方が良かった」	・全講義の最終日に討論を行ったため、早めに実施した提出レポート内容等が学生自身忘れられている等から自発的発言が少なかった。	・H27年度は、中間と最終日の2回にディスカッション日を設け、記憶の新しい中で実施した。 ・グループ形式で話し合い(アクティブラーニング形式)、グループ内で発言者・記録者・進行役などを決め、学生参加を促した。	
3	・自由意見 「クリッカーが不調・トラブルが多かった」	・WIN8で使用やアプリケーション・レシーバーチャンネルの設定状況の確認が必要と思われる	・事前に全学使用クリッカーの使用法、アプリケーションのバージョン確認やレシーバーチャンネルの確認方法を教員へお知らせした。	
4	・自由意見 「講義担当者がかかるオムニバス形式で講義毎に違うテーマ・分野、および専門的な内容を聞き、視野を広げられた」 ・自由意見 「専門的かつ包括的な授業で良かった」	・個々の教員の研究をテーマに講義をすることで、生命科学の幅広さ、専門的内容に興味を持たせることが出来た。	・H27年度は1学期・2学期と基礎と応用と継続した流れで受講することが可能となり更に深い知識と理解を得られるよう計画した。	
5	・自由意見 「スクリーンが小さすぎて見えない」(多数意見)		200名強の学生が集まるため、至急、見やすいスクリーンを用意するか、よりよい講義室を用意すべく、事務に連絡する。	
6	・自由意見 「リレー講義なので多くの話題が聴けてよかった。ただし、主題とあまり関係ない講義もあった。また、レポート提出方法などに一貫性がなかった」		主題を狭く捉えがちな学生には関係がわかりにくい回もあったかもしれない。今後、各回において主題との関係を冒頭に述べるなどの工夫を考える。また、レポートの指示もできるだけ統一する。	実際に手を動かせるようなことをすると飽きずに取り組めるようだ。

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【総合科目】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名:環境と人間					
1	・質問項目全般への回答	オムニバス形式で広く浅く知識を伝えられた。 ただし、専門的すぎる内容もあった。 学生の自主的参加をうながせなかった。	発表(内容・スライド・音響装置)を明瞭にわかりやすくする。 内容を減らして質問時間を与える。	オムニバス形式の場合、講義スタイルの不統一を気にする学生がいる。最低限の統一を図りたい。	
2	・自由意見全般	「良かったと思う点」に書かれている19人(29人中)の内容はほとんどが講義の意図を理解したものであり、満足している。			
3	・自由意見 「実験などの体験が多くてよかったらよいと思う」		講義時間と化学実験の準備であることと授業科目であることから対応不可能。		
4	・自由意見 「評価の方法がわかりづかった。明確にしてほしい」		初回に説明している。1件しかないことを考えると当該受講者が欠席したか聞き逃したと考えるのがふつう。		
5	・自由意見 「もう少し簡単な説明をしてほしかった。参考図書も明示してほしい」		最先端の内容であること、受講者の基礎知識等のちがいはきわめて大きい改善はむずかしい。		
6	・自由意見 「難しい。仕方ないとは思いますが」		対応不可能。		
7	・自由意見 「実験を行うことでより深くその講義内容を理解できるので、もっと実験を増やしてもいい」		講義時間と化学実験の準備のため対応不可能。		
8	・自由意見 「スライドをELMSにのせてくれる点」	授業で使用した資料(スライド)をELMSに掲載した点	当該授業の1~2日前にはELMSに資料を掲載すること。		
9	・自由意見 「複数の講師が多様な観点から話題を提供した」	土木・建築に関する最新の国際的・国内的視点からの話題を伝えた点。	引き続き最新の話題を学生の興味を引くように分かり易く解説すること。	専門的なテーマであっても常に学生が興味を持つようなものを日ごろから気をつけて探しておくようにすること。	
10	・自由意見 「レポートの告知は少し早めにして欲しい」	授業の後半にレポートの提出が重なるので、告知を早めにする点。	総括レポートは締切の1カ月前にELMSで課題を掲載したこと。		
11	・自由意見 「割と一方的に話されるだけで眠い」	講師から一方的に教えるのではなく、学生からも意見や解答を述べさせる。	学生に「これはどう思うか？」と尋ねたり、名前を読んで答えさせたりしたこと。		
12	・質問項目 「この授業1回のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった」	授業の予習・復習をもっと効果的にさせるように工夫すべき点。	次の授業で扱うテーマについてある程度調べさせるような宿題を出して、発表させることなどを検討する予定。		

科目名:健康と社会					
1		スポーツ医学がテーマであるが、オムニバス形式の授業であり、内容が多岐にわたり様々な分野の最新の情報が得られる構成となっている点。			複数の分野の先端的研究者を講師として利用する。
2		スポーツと医科学との関連を理解することが可能な授業である点。			
3		テストよりはレポートが良いという意見が多かった	今年より講義毎のレポート提出を課し、期末テストを廃止した。		
4		講師が異なるため、重複する内容が一部に見られた。	重複する部分については講師に構成の工夫を依頼する。		
5		冷房が効きすぎて講堂内が寒かった。	空調管理についてはその都度温度調整を行う。		

科目名:人間と文化					
1	・質問項目 ・自由意見 AV 機器によるパワーポイントや動画の利用がうまくいかなかった点を指摘する声が多かった。	2名で分担して、それぞれ得意分野を受け持ったことによって、授業にバリエーションが生まれたことが評価された。一方、授業のスピードが速い、抽象的な言葉遣いが多いなどの点で、受講者に対する配慮が足りなかったことは、今後改善すべきである。	授業で使用する教材を、事前にさらにチェックして、より明快でスムーズな授業ができるように心がける。		ELMS を活用して、受講者が自主的に予習・復習するだけでなく、さらに授業内容を応用して関心を広げていくことができるように工夫すること。
2	・質問項目 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明確に示していた」	シラバスは、授業の目標内容、評価方法を明快に示していた点。	出席の位置づけやテスト出題の方法などを明示していたこと。		成績・出席の評価方法を事前に明確化しておくこと。
3	・自由意見 「オムニバス形式であったこと」	複数の教員で構成されたが、キーワードでテーマがブレなかったこと。	事前の計画で、オムニバス内のバランスを考慮したこと。		オムニバスは時として、内容が偏るため、事前に教員間で内容を調整する。
4	・自由意見 「レジュメが配布されたこと」	レジュメを配ることでテスト勉強がしやすかったと思われる点。	復習に役立つレジュメをもっと意識する必要があった。		授業修了後の復習のことを考えてレジュメを作成する。

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【一般教育演習】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
1	・自由意見 「プリントが配布されたので復習しやすかった」	プリントを配布した点。	継続予定。	プリントは配布した方がよい。	
2	・自由意見 「発表のためのディスカッションの時間が少なかった」	発表のためのディスカッションの時間が少なかった。	教えることを減らしたくないので現状では対応不能。	可能な限り十分ディスカッションの時間を確保する。	
3	・質問項目 「授業はシラバスに沿って行われていた」	他の項目と比べて評点が低い数値になっている。必要に応じて授業の内容を別の回の内容と入れ替えたことが関係している。	平成 27 年度は当初の計画どおりに進行できるようなシラバスを作成した。		
4	・質問項目 「授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」	評点がやや低いが、ごく一部であり、また平均値を上回っているので特に大きな問題があったわけではない。	講義の部分にももう少しアカデミックな要素を加えるかを検討中。		
5	・自由意見 「授業時間の超過」	所定の模擬授業時間(1人あたり 15 分)を超えて発表する学生がでた際の時間調整が難しかった。	模擬授業の際には時間を厳守することを繰り返し伝達した上で、それでも時間を超過した場合にはフィードバックの時間を短くするなどの調整を行う。		
6	・質問項目、自由意見全般	8つの項目で高い評価を得ることができた。また、自由記述についても、学生の満足度が非常に高いことがわかった。	平成 27 年度においては、シラバスに掲載する評価方法について、さらに精緻化して具体的に記述した。	学生との親和性を高める工夫をする(ユーモア、早い段階での氏名と顔の記憶、熱意等)。	
7	・質問項目、自由意見全般 シラバスとの統合性や全体的満足度で高評価。 グループ学習も調査・プレゼンやディベート等多様であり、実際に現場の見学で見て、触って、臭って、食べれて等の経験ができ、実習に近い授業での体感・体験が良かった。 グループの組み合わせも様々な学部や系の人といっしょで、多面的にテーマを検討できて良かった。 自由意見は、概ね好評。	学生参加の促進や到達目標の達成度で高評価。 一方、見学は実践教育そのもので楽しかったが、プレゼンが準備も含めキツかった。 文系には難易度が高い場合も有った。	グループ学習の設定テーマを再検討し、学生がより質問し易い環境にする必要がある。	この点に関しては、本授業が畜産関連現場の見学も含めた特殊なものであり、グループ調査・発表も見学施設と関連させて設定しており、他の参考にはなり難いと思われる。	
8	・自由意見 「レポートの量は適切だったが、提出日が先生によってバラバラでかぶってしまうことがあったので、ちゃんと調整すべきだと思いました」	レポート提出日を教員間で調整する。	予めレポートの調整を行う。	複数教員の間で連絡を密にする。	
9	・自由意見 「色々な医療器具に触ったり、様々な場所を見学できたりしたこと」	発表の機会を多く設けたこと、座学だけでなくミニ実習も可能にしたこと。	座学以外の実習に関する機会について、もっと増やすこと。	学生からの質問があれば、丁寧に1つ1つ回答してあげるように努めること。	

10	質問項目全般 概ね好意的な意見が多かったが、講義内容、設備に関する指摘があった。	・南極への興味が満たされた ・低温研の訪問が興味深かった。 ・プレゼンテーションが楽しかった。 ・教員の熱意、体験談などが高評価。 ・部屋が暑い、定員が少ない ・講義内容の重複。 ・レポートや体験型学習の要求。	・分担教員の講義内容の確認。 ・レポート課題の検討。 ・学生によるプレゼンテーション、低温研見学の継続。	・教室を出て、施設の見学を取り入れる。 ・実体験に基づいたスライド作成、体験談の挿入。 ・学生自身によるプレゼンテーションの導入。
11	・自由意見 「生物未履修者のために資料が示されるとよいと思った」		今年度は生物未履修者用の資料を準備し配付した。	
12	・自由意見 「各プレゼン前に資料がほしかった」 「プレゼンまでの時間がもっとほしかった」		今年度は学生のプレゼンテーションまでの準備時間が十分であるかを学生に確認した上でプレゼン開始時期を決定した。ただしプレゼン前に予め資料を準備してもらうためには、開始時期をさらに遅くする必要があり実現できなかった。来年度以降、授業全体のスケジュールを再検討する。	
13	・自由意見 「発表者レポートの提出期間が異なる点が不公平だと思った」		今年度は発表後1週間後を提出期限とし公平になるようにした。	
14	・自由意見 「教室が暑い」		今年度はクーラーが設置されていた。	
15	・質問項目 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた」	シラバスに授業目標、内容、評価方法を具体的に記載していた点。	今後も具体的に記載予定。	シラバスには具体的に記載すること。
16	・質問項目 「授業はシラバスに沿って行われていた」	シラバスにそって授業を進行した点。	今後も具体的に進行予定。	シラバスにそって授業を進行すること。
17	・質問項目 「教員の説明はわかりやすかった」	なるべく専門用語を用いず説明した点、その逆に回りくどい表現で説明した点も否めない。	今後も平易な内容に務める予定。	専門用語を用いない授業進行することが必要と思われる。
18	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」	熱意を持って授業に取り組んだ点。	今後も熱意を込めて実施。	熱意を込めて授業進行すること。
19	・質問項目 「教員の話し方は聞き取りやすかった」	70人講義室でマイク設備がなかった点は改善の必要がある。	教室の後ろ3列を着席禁止としたが守られず。	受講人数に合った教室スペースが必要。
20	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した」	前半を講義、後半をプレゼンとした点。	講義中に学生に質問を計画。	「分からない」の連発は教員・学生の気分を害するので、ポイント制にするなど工夫が必要。
21	・質問項目 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」	質問に適切に対応した点。	質問のない学生に質問する計画。	何が分かって、何が分からないか知る工夫。

22	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやA V機器等の使い方が効果 的であった」	教科書に色塗りさせた点。	色塗りの効果的な復習を促 す計画。	手を動かす作業を課する工 夫、多少高価な教材を使う ことで価値観を与えられると 思う。	
23	・質問項目 「授業により知的に刺激さ れ、さらに深く勉強したくな った」	自分の体と比較をさせたり、 身近なものを例として取り上 げて説明した点。	今後も効果的な授業に取り 組む予定。	例えなどを使って説明する工 夫。	
24	・質問項目 「授業は全体として満足でき るものであった」	レポートや質問回数などをポ イントとした点。	講義を少なくしプレゼンが多 めにする計画。	発言の場を多くする工夫。	
25	・質問項目 「授業で要求される作業量 (レポート、課題、予習・復 習など)は適切であった」	レポート字数を制限し書きす ぎないようにした点。	今後も書きすぎないレポート 提出を予定。	レポート提出は1回、2,000 字程度が適当。	
26	・質問項目 「授業内容の難易度は適切 であった」	難易度は適切であった点。	今後も難易度を維持する予 定。	文理入り乱れているため、難 易度の設定は低い方に合わ せるべきか。	
27	・質問項目 「この授業の自分の出席率 は( )%程度であった」	IDカードチェックに加え、各回 クイズを出して出欠を確認し た点。	今後も続ける。	出欠は厳しくチェックする独自 の方法が必要。	
28	・質問項目 「質問、発言、調査、自習な どにより、自分はこの授業に 積極的に参加した」	発言回数をポイントとし成績 評価に反映させた点。	今後も続ける。	発言時には自分の名前を言 う習慣を身につけさせる。	
29	・質問項目 「この授業1回(90分)のため の予習・復習に費やした時 間は平均( )であった」	予習復習は殆ど必要ないこ とを授業中に明示した点。	今後も続ける。	教科書を使用することで予 習復習の価値を与える工 夫。	
30	・質問項目 「シラバスに記載されている到 達目標は、( )割程度達 成できた」	到達目標はクリアできたと評 価された点。	今後も続ける。	10割の達成度を目指す工 夫。	
31	・自由意見 「分かりやすかった」	分かりやすいよう務めた点。	今後も続ける。	専門用語を用いない工夫。	
32	・自由意見 「テキストが高価」		高価？と感じるテキストに合 致した知識の付与を計画 高価？でも受講を希望する 授業を予定。	テキストの金額をシラバスに 明示することが必要と思う。	
33	・質問項目 「教員は学生の質問・発言 等に適切に対応した」	学生からの質問などに適切 に対応できた。	演習での題材をもっと増やす ことを計画している。	演習での題材を教員の専門 領域の英文論文としたためと 考えられた。	
34	・自由意見 「教員間の授業の経過の情 報の共有が不足している」	教員間の情報の共有を促す べきであった。	授業担当教員は毎週会合 をもっているのですが際にルー チンで前週の授業経過を報 告することを計画している。		
35	・質問項目 「教員は効果的に学生の参 加(発言、自主的学習、作 業など)を促した」	効果的に学生の参加を促し た。	できる限りグループ討論する 機会を設けたこと。		
36	・自由意見 「参加者の意識レベルの違 い」	受講者の選考方法。	面接審査方法の改善。		

37	・自由意見全般	今まで知らなかった新しいオペアという世界へ案内されたこと、また、解説・資料等で、それらの背景をよく理解できたことも評価されていた。	現状をもとに、よりわかりやすく、新たな世界を紹介する工夫(最新のメディアの利用等)を考えてみたい。		
38	・質問項目 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた」 「授業はシラバスに沿って行われていた」			シラバスの内容およびそれに沿った進捗に評価が高かったが、これに関しては入念な準備が最も効果的であろう。	
39	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した」	比較的低い評価だったが、学生との双方向的な要素が少なかった点である。	授業の性格上、受動的になりやすい面は残るが、受講者の感想なり考えなりを積極的に紹介し、双方向的な要素を増やしていきたい。		
40	・自由意見 「毎回のレポート」、「学生の興味を引きつける授業内容の工夫」、「実験に関して学生で意見を交わす点」、「解説のわかりやすさ」 ・自由意見 「説明に使われる概念が難しい」、「1人ひとり意見を求められるのは苦痛」、「解説が少ない」、「何の役に立つかわからない」、「物理を習っていないと難しい」等	「良かったと思う点」と「改善した方がよいと思う点」が同じであるものも多いように見えるが、「1人ひとり意見を求められるのに、時々苦痛に感じた」という意見や難しく感じている学生がいる点は改善した方がよい。	今年度から実験の予測をグループで相談できるようにした。来年度は必要な基礎的概念の理解を助ける実験の一つを加えることを検討している。また、学生がよりよい選択を出来るようシラバスについても検討したい。		
41	・質問事項全般 ・自由意見 「論文執筆が楽しい」、「書き方を学べた」	良かった点は、「シラバスにそって行われていた」「効果的に学生の参加を促した」「学生の質問・発言等に適切に対応した」「黒板、教科書、プリントやAV聞き等の使われ方が効果的だった」「予習・復習に費やした時間」。改善点としてシラバスの内容、熱意の伝え方、知的刺激の方法、学生満足度の向上の方法について検討した。	・2学期からシラバスの内容を改善し、学生に求められていること、それによって何が身につくのかについてより詳細で具体的な内容を記述した。 ・グループ面談および個別面談の時間をとり入れた。アクティブ・ラーニングの導入で短縮された講義の時間(知識伝達の時間)をカバーできるように、面談では個々の学生とのコミュニケーションを図りながら知的刺激をし、学生の満足度を上げるように工夫した。そうすることで教員の熱意を伝える努力を試みた。	・アクティブ・ラーニングをとり入れた授業。 ・個別面談での学生対応の仕方。 ・アクティブ・ラーニングに使用するワークシートの作成。	
42	・質問項目全般 ・自由意見 「論文の改善点についてよく理解できた」、「グループによる論文は責任を伴い、大変いい経験になった」、「普段取り扱わない話題に触れられて良かった」	良かった点は、「説明がわかりやすい」、「熱意が伝わってきた」、「話し方は聞きやすかった」「効果的に学生の参加を促した」「学生の質問・発言等に適切に対応した」「黒板、教科書、プリントやAV聞き等の使われ方が効果的だった」「知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」「予習・復習に費やした時間」。改善点としてシラバスの説明、時間配分、学生満足度の向上の方法について検討した。	・2学期からシラバスを改善し、学生に求められていること、それによって何が身につくのかについてより詳細で具体的な内容を記述した。 ・グループ面談および個別面談の時間を導入した。面談では個々の学生とのコミュニケーションを図りながら論文指導に力を入れ、学生の満足度を上げるように工夫した。 ・時間配分に気をつけながら授業をした。	・アクティブ・ラーニングをとり入れた授業。 ・個別面談での学生対応の仕方。 ・アクティブ・ラーニングに使用するワークシートの作成。	

43	<p>・質問項目全般          ・自由意見          「深く考えることができた」、          「ディスカッションが多くあった」、          「発言の機会が多かった」          「多角的な議論ができた」          「授業時間外でも論文についての相談にのってくれた」          「留学生と一緒に議論することで国や文化による違いを感じることができて良かった」</p>	<p>特に良かった点は以下のとおりである。「到達目標は( )程度達成できた」「知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」、「学生の質問・発言等に適切に対応した」、「効果的に学生の参加を促した」、「シラバスにそって行われていた」、「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使われ方が効果的であった」「積極的に参加した」。</p>	<p>1学期の反省を受けて、2学期は全て改善された。しかし、2学期は、他の科目の試験期間と論文作成の時間が重なったため、複数の学生から「テスト期間などに論文課題が出て大変だった」「論文作成にもっと時間をかけたい」「論文指導はもう少し早い段階から始めてもいいと思う」というコメントがあった。そのため、2015年度は論文指導の時間を早めてテスト期間と重ならないように工夫した。</p>	<p>上記に同じ。</p>	
----	--	--	--	---------------	--

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【共通科目】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名:体育学B					
1		良かった点として、様々な分野の教員で授業展開することで多様な側面から体育学を学べる点。	継続して、今年度も同様の形式で実践している。	シラバスが明快であった点やシラバスにそって授業を進めたことを高く評価してもらえたことから、他の授業でも参考になるのではないだろうか。	
2		改善点として、器具の不具合が多く挙げられていたこと。	授業開始15分前には教室に行き、事前に器具のチェックを行うように心がけている。		
3		改善点として、テストからレポートに変えて試験実施した点も多く挙げられていた。これについては、教員側の不手際であったことに間違いなく、反省する点である。	初回授業の際に、レポートかテストかを明確に学生に伝えるようにした。		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【外国語】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名: 英語					
1	・自由意見 「みんなの書いた文章をどこがいいのか考えるというのはとてもおもしろく、自分のためになった」 「グループディスカッションによってみんなで知識を分けあうことができた」	学生の自主的な気付きや、スキルと知識の共有をねらいとして、グループワークを多く課したことが効果的であったと考えられる。		この授業のような、学生を主体とする発信型の授業においては、ピア・レビューが相互的コミュニケーションの基盤形成に役立つのではないかと考えている。	
2	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」	熱意がある。学生に分かってもらおうとする工夫がある。	今後も継続して、毎回のポイントを明確にして、準備にしっかり時間をかける。		
3	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した」	毎回、さまざまな形で、教師の一方的な説明にならないように、学生の参加を促した。Readingの授業では、groupで当番を決めて内容のまとめ発表をさせている。	英語Ⅰでも、英語Ⅲ、英語Ⅳでも、毎回簡単ペアワーク、group work、dictionary work、(CALL教室の場合はinternet workを実施し、一方的にならないように工夫している。	辞書を上手に使えない学生が多い(「訳」調べるだけ)。読み間違い、書き間違い、あるいは質問があった語彙の中から、授業中に辞書で調べさせ、中学生に分かりやすく説明する方法をペアで考えさせる。(例: firstとat firstの違いは?) 辞書には「訳語」以外に様々な有用な情報が書いてあることに気が付くと、自分で上手に辞書を利用するきっかけになるようだ。	
4	・質問項目 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」	質問発言への対応。授業中に手を上げて質問する学生は少ないが、紙に書かせるとさまざまな質問が出てくる。	毎回、授業の最後に質問コメント用紙に記入をする時間を設けている。宿題にも、質問を書く機会を設けている。毎回、授業の中で前回の学生からの質問の一部を取り上げている。また、質問要旨は次の回に学生に返却しているが、その際に各学生の質問へ回答、アドバイスを書くようにしている。	Reading授業では、毎回、範囲を決めて数名の質問当番を当て、事前に分からないところをメールで送らせている。質問当番の学生には、個々の質問たいして説明をして、質問当番全員の質問とそれに対する説明解説をプリントアウトして、全員に配布している。質問の中で適当なものを選んで、授業中にも説明したり、ペアワーク、グループワークの題材にしたりしている。(自分の質問が採用されたりすると、さらに質問をする動機づけが上がるようだ)。	
5	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使われ方が効果的であった」	AV機器の効果的利用。	PCを利用し、必要な音声や画像の紹介、練習。また、PPTスライドを作成してそれをスクリーンに映しながら授業を進めている。	スライドを使うことにより、ポイントをハイライトして説明したり、写真なども利用できる。また、簡単なクイズなどもできる。学生を集中させるのに有効。	
6	・質問項目 「授業で要求される作業量(レポート、課題、予習・復習など)は適切であった」	他の授業と比べて課題の量が多い。	課題はやや多めかもしれないが、その点を高く評価している学生もいるので、time managementも含めどのように課題に取り組むかを各学		

			生に工夫してもらいたいと思っている。		
7	・自由意見 「課題が他の科目に比べて多い」		多少加減をすべき回もあるかもしれないが、多いと感じるかどうかには個人差が大きいので、多くの課題をこなすことで学習のペースがつかめてありがたいと言っている学生の方に合わせている。		
8	・自由意見 「作文を書く機会が多く、リスニングの練習も多く、よかった。最初は課題が多いかなと思ったが、それをこなすことで英語に対する自信がついた」		英語 I では、後半は毎回作文の課題を出している。リスニングも毎回宿題と宿題の応用問題は授業の最初の小テストで行っている。また、全ての授業で、授業の最後の7分程度、(1)What did you learn in today's class と(2)What did you find most interesting in today's class を英語で書かせている。	どの授業でも、最後の7分程度(1)(2)を英語で書かせている。最初は嫌がる学生も多いが、数週間で慣れてくる。ここでは、細かな文法的な点は気にせずできるだけ語数を書くように指導。言いたいことが思うようにつけられないという経験を重ねると、自分で書く勉強を始める学生もいる。その日の授業を自分で振り返ることで、頭の整理と reinforcement ができる。さらに、学生がどの程度ポイントを理解しているか、どの部分に興味を持っているかを確認できるので、その後の授業に生かせる情報が得られる。クラスによっては、TA に書く学生が書いた語数を数えてもらい、成績評価の一部に加えている。	
9	・自由意見 「クラスワークなどで学生同士が交流できることが良かった。コミュニケーションに関する学習が多く、クラス全員で参加できる点良かった」			教室に人が集まっているからこそできる(家でひとりではできない)活動を毎回必ず入れるようにしている。学んだ表現を応用した会話練習(half structured conversation practice: 途中までは、会話の台本を与え、最後の部分を自分たちで作っているという形)。Reading の授業では、興味深い内容に関して、日本語で discussion をさせる場合もあり(ペアで、あるいは4名程度のグループで)。内容に興味を持つと予習や復習の動機づけが上がるようです。	
10	・自由意見 「Glexa の録音課題で、自分の発音を先生が評価することで、自分の発音の改善点がわかったこと」			英語 I の授業では、Glexa の録音課題提出機能を利用して、発音課題を提出させています。最初は、嫌がる生徒もいますが、簡単なものから初めて最後は、自分の作文のプレゼンテーションの練習として提出させます。一人一人の発音の弱点や癖がわかるので、具体的な feedback ができます。個々の学生に簡単なコメントをつけ、多くの学生に見られる共通の問題点	

				<p>に関しては、授業で説明し、発音練習をします。Malala Youfzai の国連スピーチの一節を録音する課題では、少なからぬ学生が感動しながら気持ちを込めて発音できているようでした。</p>
11	<p>・自由意見 「英語を学ぶことの意義や楽しさがわかったし、自分がどのくらいまで本気を出すことができるのか、何がたりないのかが分かった。授業が終わっても、自分で英語をもう一度勉強してみようと思えた」</p>			<p>読解の授業では、日本人学習者向けに作られた「手加減された」テキストは使わない、毎回、かなりの量を読ませる。それによって、どのくらい本気を出せば本物が読めるのか、自分に何が足りないのかに気づく機会にしたいと思っている。グループワークや小テスト、宿題などで、本気を出さざるを得ない状況を作ること工夫をしている。内容が知的に興味深いものであれば、多くの学生が頑張っているように思える。</p>
12	<p>・自由意見 「英語を読んで、ただ、それを解説するだけでなく、生徒にプレゼンという形で解説をさせる場を設けたり、会話や作文もバランスよく混ぜられていてよかった。授業の内容も1つ1つが分かりやすく、核心を突くものばかりで、あらためてこれからの英語に対する向き合い方を教えてくれたと思う。もっと英語ができるようになりたいと思える授業だった」</p>			<p>reading の授業では、グループごとに範囲を決めて内容をパワーポイントを使いながら発表させている。グループワークであること、皆の前で発表しなければならぬことから、多くの学生が「本気で」読み込んでくる。学期中に2回機会があるので、分かりやすい発表を心がける態度も意識するようになるようだ。また、reading の授業でも、テキストに出てきた表現を応用して、ペアで会話練習をする時間も毎回数分は設けている(多くの学生が、学んだ英語表現を実際の会話で、使いたがっている。)</p>
13	<p>・自由意見 「英文要約の空欄補充問題の配布物を事前にほしい」</p>	<p>課題プリントの事前配布。</p>	<p>英語4で、英文を板書したイラストを見ながら英語で再話して聞かせる授業であったが、理解を助けるために、ところどころ穴あきの要約文を授業最初に配布していた。これを授業外の課題の一つとして、前の週に配布し、授業では再話に集中できるようにした。</p>	

科目名: 英語演習

1	<p>・質問項目 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」</p>	<p>学生の発表に対して質疑応答する作業を中心としたので、教員がコメントを加える機会が多かったことが評価されたと思われる</p>		<p>学生の発表に際しては、まず彼らの思考の流れをたどるようにして理解した上で、適宜コメントを加えていくことが効果的であると思われる</p>
2	<p>・自由意見 「扱っているテキストは難しいところもあったが、説明がわかりやすかったし、理解するとてもおもしろいものだった」 「内容が非常に興味深く、読</p>	<p>質疑応答を通して、単に読み違いを指摘するだけでなく、学生の理解を妨げている知識不足を補うことを常に意識して授業をすすめたことが評価されたと思われる</p>		<p>外国語演習においては、多少レベルの高い教材であっても、テーマや論点の面白さを学生に丁寧に伝えようとすることによって、学習意欲を向上させることができるように思</p>

	んでいて楽しかった。授業自体も生徒のモチベーションを維持させるような工夫がなされていた」			う。	
3	・自由意見 「[テキスト教材の]プリントを補強する形でスライドや引用のプリントを活用していて、英語の授業としてだけでなく、観光の中身にも満足できる内容だった」	学生の理解を促すためには労力を惜しまずスライドやプリントを用意したことが強化されたと思われる。			
4	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」	正直、何がよかったのかわかりませんが(笑)、自分自身楽しんで授業をしていたからかもしれません。			
5	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した」	学生と一人一人面談をしながら、自習を促していきましたので、それがよかったのかなと思います。		比較的少人数だからできることですが、一人一人に時間を割くこと。	
6	・自由意見 「リスニング・リーディングの力がついた、解説・毎週の宿題が適切だった」	改善した方が良いと思う点として、板書が読めない時があった、ということが指摘された。	板書の英語は、なるべく筆記体を使わないよう気をつけている。	特にはありません。	
7	・質問項目全般	スケジュールをあらかじめ示して課題のエッセイの作成を段階的に進めていった点。	この授業はテキストの編者が作成したモデル・シラバスに沿って行なったところ、学生からの評判がよかったので、同様のシラバス構成を心がけること。	テキスト「My Home, My English Roots」(松柏社)は推薦できる。	
8	・質問項目 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」 ・自由意見 「質問について、次回に解説があったことが良かった」	毎回、授業の最後に質問等を書かせ、次に授業で解説している。	毎回のレポート、質問提出により、双方向のやりとりを行っている。	その場で直接質問はできないが、書かせるとハードルが低くなる。	
9	・追加設問 「コミュニケーション能力(自分の考えを的確に表現し、他者と相互にアイデアを交換できる)」 ・自由意見 「各グループで学生が主導となって学習を進めた点良かった」 「討論することが楽しかった」	英語の論文読みと、その内容をまとめる作業をグループごとに行かせた。	グループで討論させ、発表させる。	グループ学習により、学生に主体的に授業に参加させた。	
10	・追加設問 「人間や社会の多様性の理解(世の中には、様々な価値観を持った人々や社会が存在していることを受け止める)」 ・追加設問 「社会的責任と普遍的な倫理観(人間としてあるいは市民としての責任と倫理の自覚)」	社会問題についてもグループで討論させた。	論文読みだけでなく、それに関わる社会問題を考えさせる。	英語だけでなく、現実の社会問題も意識させる。	
11	・質問項目 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」	授業内において、個人ワーク、グループワークのいずれにおいても個人での口頭発表を促すことで、双方向のコミュ			

		ニケーションを形成するようにした。			
12	・質問項目 「授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」	シラバス内での授業内容(一般目標、到達目標など)の記述が十分ではなかった。次年度以降において改善を目指したい。	・英語と日本語の使用頻度の割合を再考する。 ・レベル設定が適切であったか、本内容であれば「中級」が妥当だったかもしれない。		
13	・自由意見 「教員の説明がわかりやすかった」	フレンドリーで親しみやすい雰囲気を作った点。	学生の発話を促すこと、なるべく内容の難しさを感じさせないようにすること。	専門的な内容があっても、平易でわかりやすい説明を行うように心がけること。	
14	・自由意見 「専門的な内容についてもう少し日本語での解説が欲しかった」	1学期と同内容の授業でありながら、教員側の説明の難易度が上がってしまった点。	教員側が同じ授業で展開を予測できる場合こそ、敢えて指導スピードを落として、ゆっくり教えるように心がけるべきであること。	教員側が同じ授業で展開を予測できる場合こそ、敢えて指導スピードを落として、ゆっくり教えるように心がけるべきであること。	
15		・英語で文章を書くトレーニングができたこと。 ・戦後の日本の大衆文化を歴史的かつ体系的に理解できたこと。 ・講師が学生とのコミュニケーションに積極的に挑んだこと。 ・学生間のコミュニケーションができたこと。 ・親しげな雰囲気。 ・課題発表と論文提出の経験。 ・東アジアの観点からの日本の大衆文化を理解できたこと。 ・さまざまな視聴覚資料をつうじて説明がなされたこと。		・視聴覚資料の適切に用いること。 ・講義の内容について学生の意見を聞くなど、授業中に学生との積極的なコミュニケーションに積極的に挑むこと。	
16		・英語が苦手な日本人学生への配慮。 ・他の学生とのコミュニケーション機会を増やして欲しい。 ・もっと多くの本を読んで、深い議論がしたい。	日本人学生(50%)と留学生(50%)が受講するこの授業では、英語のレベルと内容の深さのバランスをいかに保つかが問われるため、今後学生間のコミュニケーションを増やすことで、バランスを調整していきたい。		

科目名: フランス語, フランス語演習

1	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」 「教員の話し方は聞き取りやすかった」 「この授業の自分の出席率は( )%程度であった」	教員の熱意と話し方の評点が高いと、出席率も高くなる。特に、フランス人教員について当てはまる。		分かり易い授業の展開を工夫すべきである。	
2	・質問項目 「質問、発言、調査、自習などにより、自分はこの授業に積極的に参加した」 ・自由意見 「予習・復習の箇所が明確であること」	特にフランス人教員では、課題が明確だと授業の積極的参加度が上がった。外国語科目でも、文法と口頭・購読に授業が分かれていて、課題が明確であることを評価する自由回答があった。	各自、次回の予習や宿題の箇所を授業中に告知する。	15回の授業の宿題表を要求する自由回答もあったが、進行状況によって各回にやることを明確にする方が柔軟である。	

3	・質問項目 「授業内容の難易度は適切であった」	全般的に授業の難易度は、そう思う・どちらともいえないとの回答が多数であった。	理解度は履修者によって異なるので、繰り返ししたり、違うアプローチの説明を試みたりする。		
4	・自由意見 「履修者どうしの会話練習に関して」	自由回答にて、評価する声があった。	履修者が会話の発表をすることで、解答を理解し、会話と単語のバリエーションを増やす。		
5	・自由意見 「授業の進捗について」	Call 授業の進捗よりも、対面授業が先行するようにこの要望があった。	対面授業と Call 授業を対比した進行表を作成し、その計画に沿って授業を進めている。		

科目名:中国語, 中国語演習

1		<ul style="list-style-type: none"> <li>・TA がいて発音をたくさん聞くことができ、自分の発音を直してもらえた。発音やリスニングが鍛えられた。</li> <li>・小テストや定期的テストで継続的に学習できた。</li> <li>・日本人学習者の目線で教えてもらった。(間違いやすいところを指摘するなど)</li> <li>・言語だけでなく文化についても知識を得られた。(雑談・ビデオなどを通して)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・TA の活用</li> <li>・ネイティブとノンネイティブ教員による分業と連携の質を上げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教員の熱意が伝わるか。</li> <li>・話し方が聞き取りやすいか。</li> <li>・説明がわかりやすいか。</li> </ul>	
2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数でやりたい。</li> <li>・授業時間内のペース配分。</li> <li>・日本人学習者目線の指導を受けたい(発音の指導など)。</li> <li>・教員同士の連携(ペア授業について)。</li> </ul>			

科目名:ドイツ語演習

1	・質問項目 「授業は全体として満足できるものであった」	少人数できめの細かい指導を行った点が評価されたと思われる。	学生のレベルにあった文章を選び、自宅での個人学習と、教室での解説に加えて、教室で実践練習を行った。その際、一人一人の進度に合わせたアドバイスをを行った。	語学の学習は、やはり少人数で行う必要がある。個々人の進度はさまざまなので、学生一人一人に応じたきめの細かい指導が必要になる。	
2	・質問項目 「授業内容の難易度は適切であった」	難易度はほぼ適切だったと思われるが、やや難しすぎるテキストも含まれていたため、やや低いという評価になったと思われる。	著名な哲学者や有名なテキストにこだわらず、広い範囲から適切な難易度のテキストを選んだ。	適切な難易度の文章を選んでも、部分的に難易度の高い箇所が出てくる場合があるので、そういう箇所については適宜注をつけるなどして事前にヒントを与えてもよかった。	
3	・自由意見 「難しい独文を読む技術がついた」	個々人の進度に合わせた個人指導と、文法事項や読解のコツを丁寧に解説したことが評価されたと思われる。	適切な量の宿題を出すほか、教室ではじめて読むテキストによる実践練習に取り組ませ、その際、各自の進度に合わせた個人指導を行った。	はじめて中級以上の文章に接する学生には、小さなヒントが読解の大きな助けになる。個人指導により、できるだけ多くの具体的なヒントを与えることが望ましい。(ただしそのためには、少人数授業である必要がある。)	

科目名:韓国語演習

1	・自由意見 「単語集が便利であった」	テキストに出てくる単語をまとめたプリントを配布した点。	テキストに出てくる単語集を別途に作る予定。	テキスト内の単語や表現の説明以外に、別途にもっと多様な表現の単語集を作ること。	
---	-----------------------	-----------------------------	-----------------------	---	--

2	・自由意見 「授業で韓国の文化や社会情勢についても知ることができたこと」	文法の以外に、韓国の文化や社会について触れた点。	韓国語の文法と一緒に韓国の文化も一緒に紹介する予定。	文法の以外に文化面での説明もすること。	
3	・自由意見 「テキストが少し難しい」	難易度。	少々難易度を下げて別のテキストを選ぶ予定。	可能な限りより多くの学生のレベルに合わせること。	
4	・自由意見 「ELMSを利用してほしい」	ELMSを利用。	ELMSを利用する予定。	ELMSを利用すること。	

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【文系基礎科目】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名:人文社会科学の基礎					
1	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言, 自主的学習, 作業などを促した) 「グループ・ディスカッションがよかった」	ほぼ毎回グループ・ディスカッションしたことが多くの学生から評価された。一方, グループの組み方などに学生の一部から不満が語られた。	引き続き, グループ・ディスカッションを効果的に取り入れていく。同時に, グループの組み方についてもさらに工夫をする。	グループ・ディスカッションは学生の意欲を向上させ, 満足度も高いことがわかった。	
2	・自由意見 「マイクが聞こえにくいことが多かった」	音量については気をつけていたつもりだが, それでも聞こえにくい学生がいたということは, さらに気をつけなければならないということ。	音量については TA も使って常に気をつけるようにしたい。		
3	・自由意見 「スライドをプリントアウトしてレジュメを配布したことがよかった」	(要改善)学生が参加する度合いが低かった点。 (評価)授業内容のレジュメの配布が評価された点。	スライドの字が細かすぎる点と1枚のスライドの情報量が多すぎるという指摘があったので, スライドの工夫を検討している。	全体として高い評価は受けていないので他の教員の参考にはならないと思うが, 毎回レジュメを配布することは学生から歓迎されるようなので, 可能であれば実行するとよい。但し詳細すぎないように工夫が必要であろう。	
4	・自由意見 「講義の直接の内容だけでなく, 大学生活および今後の人生全般に対する考え方や姿勢を示してくれたことが良かった」	とくに全学教育(大学生になっただけの1年生)ということを踏まえて, 授業内容に関連させながら, 評価してくれているような内容について, 学生諸君を大学の, 学問の, 人生の「後輩」という位置づけを強くもって, 及ばずながら, 熱意を込めて, 毎回話をしていくつもりですので, アンケート結果から, それが伝わっている, と思われ, 大変うれしく有難い評価と認識しています。かかる態度は世の趨勢とは相いれない点もあるかもしれませんが, 学生諸君(後輩諸君)の評価を支えとして, 今後もこの方針を続けていこうと思っています。	(a)機材トラブル関係 自由表記欄に記されているように, AV 機器を多用しており, 何度か DVD 等の映写トラブル(映像が流れない, 音声がかたくなる等)がありました。これは授業展開上も問題ですので, 今後の対策として, なるべく予行を試みるなど準備に時間をかけるようにしていきたいと考えています。 (b)プリント配布関係 同じく, プリント配布の希望があります。これについては, 私の授業は, 日本美術史の講義ですので, 毎回大量の画像をパソコンからスライド映写しています。文字のレジュメはおおむねプリント配布していますが, 画像のコピーはすべてを配布しているものではありません。意見はこれを希望するものと思われ。しかし, 画像数も多く, 受講生も200名を越える授業であり, すべてを配布することは難しい点があるところですが, より良い講義内容の理解をめざして厳選したものとなりますが, なるべくプリント配布もできるように善処したいと考えます。		

5	<p>・自由意見 「全体の評価は低かったが、「言語批判」という観点から、言葉に対するさまざまな考え方を知り、自分なりに言語について考える機会を与えてくれた」</p>	<p>評価された点：情報量が豊富で、授業内容が濃かった。また、参考文献(出典箇所)を多く紹介してくれたことで学修しやすかった。 改善点：スライドの文字が小さすぎて見にくかった。また、スライドの分量が多く、要点がはっきり分からなかった。</p>	<p>スライド(プリント)の情報量が多く、内容も濃かった、と評価してくれる学生がいた反面、量が多すぎて消化しきれない、という批判もかなり受けた。初めての担当科目だったので、時間をかけて準備をし、力をこめたつもりだったが、今後は、もっと学生の立場に立って、彼らの理解度を確認しながら講義を進める必要があると考えている。</p>	<p>多人数の講義でも、ときどきは、学生との双方向的なコミュニケーションの時間をとることが大切だと思った。</p>
6	<p>・自由意見 「『考える』ということについて、ただ考えろというのではなく、どう考えればいいのかを考えられたので満足だった」 「主体的に学べなどと言われてもどうしたらよいかいまいち分からず困っていたが、どのように学べばよいかなどの方法が明確で心強かった」 「今までも本は読んでいたが、思ったことを書いて記録するようにしたり、行動にも移しています」</p>	<p>大学で学ぶということについて、明確で具体的な理解を育むことを目的とした。毎週のトピックを「五感を使う、違和感を育てる」「常識を疑う」「問題を設定する」「実態を捉える」「比較の重要性」「概念で捉える」などという形で設定し、人文社会学者が実践するこうした知的な技法について、実際に学生に経験してもらう体験型の授業とした点。また、学期を通して、書くことの重要性を強調した。</p>	<p>授業を概ね3分割し、最初の30分を知的技法の紹介、次の30分でそれを学生に実際に体験してもらう時間(個人作業+グループディスカッション)、そして最後にその成果を発表・総括した。「技法」の効果を感じることができるといったような作業とディスカッション・トピックを設定するよう心掛けた。</p>	<p>学生は「批判的に考えること」「自分の頭で考えること」等周囲から言われており、その重要性は理解している。ただ、どうすればそれを実践できるのか分からず戸惑っているように感じていた。研究者がそれをどのように行っているのか、簡単な事例を用いつつ体験させてあげると、教育効果が高いのではないかと。</p>
7	<p>・自由意見 「グループ・ディスカッション、個人での検討など、学生の作業が多く退屈しなかった」 「学生同士自分の意見を言い合い、ディスカッションのスキルも向上させることができた」</p>	<p>学生はこちらが思った以上にお互いに意見を交換する機会を求めており、ディスカッション形式は非常に有効だと感じた。</p>	<p>単にグループ・ディスカッションをするのではなく、トピックによっては直前に個人で考える時間を設け、しっかり自分の考えを作らせてから、グループでの討議を行わせた点。</p>	<p>ディスカッションは、それを行う目的を明確化しなければならず準備が難しいが、それさえ行えば北大生の相互学習能力は高く、有効な手法ではないだろうか。</p>
8	<p>・質問項目 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 ・自由意見 「パワポの文字がとても多いという印象がありました」</p>	<p>毎週のトピックについてはパワーポイントにまとめて講義した。また、PDF版を作成し、ELMSに掲示し、学生が復習に使えるようにした。</p>	<p>トピックについては、すべて文字(と講義)で伝えようとせず、より分かりやすいビデオ教材などがあると良かったかもしれない。</p>	<p>特になし。</p>
9	<p>・自由意見 「もう少しディスカッションの時間が欲しかった。終了時間はもう少し気にして欲しい」 「もう少し、事前に議論の準備をする課題があった方が良かったと思う」</p>	<p>時間配分は悩みどころであった。授業を3分割すると、ディスカッションに割ける時間は長くて40分であり、十分な時間を取れないうらみが残った。実際、総括は時間切れになることも多かった。</p>	<p>時間配分は検討課題。正直90分ではきつい。100分から120分くらいの時間が必要だろうと思う。</p>	<p>特になし。</p>
10	<p>・自由意見 「参考文献をたくさん紹介してくれた点」</p>	<p>授業で体験した技法や、ディスカッション・トピックについてさらに掘り下げられるよう、なるべく本を紹介した。</p>	<p>できれば読書リストを作って渡すと良かったのかもしれない。</p>	<p>新入生が「学びたい」という意欲を持っていることを強く感じた。読書のススメは、そういう意欲に直接応えるもので、有効な手段だと思う。</p>
11	<p>・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した」 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」</p>	<p>授業はすべて質疑応答形式で行ない、学生には小グループ単位に分かれ見解を整理させ、発表させた。</p>	<p>応答形式で構成するためには、質問の明確さと深さが同時に求められ、教育内容構成上の工夫が必須である。</p>	<p>同左</p>

12	・自由意見 「グループ討議によって多様な意見に触れ、問をふかめることができた」	同上。	1年生の1学期に受講する学生が多いことを踏まえ、最初は自己紹介を含めた緩やかな討議形式をとった。討議に慣れ、自分の見解を省察するためのトレーニングが必要と考えた。また討議は安心してできる環境がないと進まない。受講者の集団性を高めるような配慮も教員側で行った。	学習集団の構築への配慮が必要である。討議をしても、教員が「正解」を示し、意見を採点するような応答をすれば、学生の討議は「正解」探しになってしまう、自由に意見を交換する場・集団は生まれない。
13	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」 ・自由意見 「3人の教員の意見の多様性」	講義は3人の教員が担当したが、最初と最後は全員が登壇し、学生との集団的討議を行った。その場で教員の見解の際も明確になり、学生が自分の見解を確立するうえでの一助になったと思われる。	ミニシンプのような教員間の議論は評価や方法の多様性と共通性を具体的に示すことになる。	
14	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやA/V機器等の使い方が効果的であった」 ・自由意見 「話し合いの時間の不足・資料提示の工夫」	事実に基づく討議のためには、一定量の素材を提供することが不可欠であるが、授業時間の制約がある中では、教材の精選とそれによる討議時間の保障が必要である。	資料提示は要点の解説のみにとどめた。次年度からは事前に配布し、自宅学習を求めめることも検討したい。	討議中心の授業形態になると、必然的に反転学習形式に移行すると思われる。
15	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」 「黒板、教科書、プリントやA/V機器等の使い方が効果的であった」	クリッカー、twitterの使用、教員の実体験を盛り込むといったことで、熱意が伝わったと思われる。	学生に馴染みのある媒介や共感しやすい素材の使用を心がける。	同左。
16	・自由意見 「特定の学部生ではなくとも理解でき、興味が持てる内容だった」	なるべく身近な素材や、誰もが体験している事柄を取りこんで、授業を展開しようとした点。	多様な学生を対象とする科目である点をよく理解し、素材や説明の仕方を工夫する。	なるべく学生自身がよく知っている事柄、体験している事柄をきっかけに授業を展開すること。
17	・自由意見 「レポート提出遅れを0点とするのは厳しすぎる。家庭の事情等の場合は考慮してほしい」	数百名規模の授業では、提出遅れが数十名に及ぶため、対処が物理的に難しいことをよく説明する。また、客観的にどうしてもやむを得ない事情については、考慮する場合ありとする。	授業では、提出遅れを認めない理由をなるべく丁寧に説明するよう努力している。やむをえない事情に関しては、申し出があれば考慮している。	
18	・自由意見 「講義資料の作成法」	具体的な説明が多いため、理解がしやすい点が良かった	今後も継続する予定。	理論→応用事例をセットで説明すると、社会科学領域においては効果的な説明になると思われる。
19	・自由意見 「授業での発言機会がない」	学生の発言機会を設ける。	100人を超える講義であり、発言を望む学生に等しく機会を与えることが難しい。そのため、当該講義において、質問用シートを作成し、各講義後に回収し、次回にフィードバックする旨を伝えていた。しかし、ほとんど活用されなかった。次回はまずこの点を周知し、受講者との双方向性を確保したい。	
20	・自由意見 「私語等への注意の仕方が望ましくない」	注意の仕方を改善する。	板書、講義中課題などメリハリをつけて対応する。また、縦長の教室であるため、後ろの方まで目が届きにくい。今後	

			同様の教室を割り当てられた際には、TAに教室の後ろを巡視してもらい、注意を促してもらおう予定。		
21	・質問項目 「授業内容の難易度は適切であった」 「教員の説明はわかりやすかった」	とくに低い評価となっている。	入門的科目としては内容を詰め込み過ぎ、各回の授業密度が高すぎたと思われる。次にこの授業を担当する機会があれば、この点を改善したい。		
22	・自由意見 「資料の事前アップロード、復習機会があることが良い」			授業で使うパワーポイント資料を毎回事前にアップした点や、2回の試験前に復習の機会を設けて、TAを含めて集中的に質問に答えたことなどが評価されていたので、今後もこの方法は続けたい。	
23	・自由意見 「資料を印刷して配布してほしいという要望がある」		資料を紙で配布するように求める声もあるが、これは当初説明した通り、大人数のクラスで、資料の量も多いので不可能。		

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【理系基礎科目】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
科目名:線形代数学 I					
1	・自由意見 「授業の途中で5分の休憩時間を設けたことが良かった」			90分の講義時間は多くの1年次生には長いと感じる。集中力は持続できないので、めりはりが必要。	
2	・自由意見 「丁寧すぎるくらい丁寧な説明。板書の字が見やすかった。黒板の右上の通し番号が良かった」			授業の速度を落とすためにも、数学記号だけでなく言葉もなるべく省かず板書している。複数枚の黒板の教室では、使用順に通し番号を振っている。板書量の確認にもなる。	
3	・自由意見 「最初に小テストを行う点。授業を理解しているか確認できるため」	簡単な小テスト(教科書、プリント、ノートをみてもよい)を講義最初に行って前回の講義内容を思い出してもらった。			
4	・自由意見 「授業毎に小テストがあって確認できたので良かった」			授業の理解度ををはかるためにも、小テスト等は有効である。しかし、中には負担に感じる学生いる為、適度な回数を実施するのが良い。	
5	・質問項目 「教員の熱意が伝わってきた」	年々学生との年齢差は開くばかりだが、4月はじめの、これから勉強するぞ!という意気込みに答えようとしているのが少しは効果があったのかもしれない。			
6	・自由意見 「黒板の下の方の文字が後方からは見にくかった」		板書を工夫して、下の方を使わないように気をつけている。大きな教室では、上下に移動する黒板を導入すべきと科目責任者に提案した。		
7	・自由意見 「もう少し発展的な内容があっても良かったと思います。教科書に書かれていないこともやってほしかったです」		わかりやすさを損なわないように、発展的な話題だと明示した上で、取り入れていくことは可能である。		
8	・自由意見 「内容が高度。文系混じりのクラスなので、数式とか理解できない人が多いと思う。授業中に先生から「これ、習ったか?」など確認があれば良かった」		講義中に、使用している用語の意味を知っているかどうかの確認をなるべく行っている。		
9	・自由意見 「小テストの解答例があった方がよい」		来年度は、必要性を判断して、解答例を適宜作成する。		
10	・自由意見 「教科書等を持込不可にして、定期試験のレベルを教科書の例題程度にしてほし		どうしても数学がもともと得意な学生に合わせて試験を作ってしまう傾向があるので、例題演習を多くして、応用問		

	い]		題を解く楽しみを伝えるつもりである。		
11	・自由意見 「講義で使用する用語について、高校までに習ったかどうかの確認をしてほしい」		用語の確認を実行している。		

科目名:線形代数学Ⅱ

1	・自由意見 「テストがよかった」 「テストの評価をしっかりと明示したこと」	テストでは座席を指定し、不正が行われにくい環境にした。テストの解答、配点、成績評価基準を公開した。			
2	・自由意見 「スライドを使っていてノートを取る手間がなく、効率が良かったこと」			板書を書き写すだけの授業を懸念してスライドにしているが、適切に使用しなければ、効果は薄い。	
3	・自由意見 「もっと簡単にしてもよい」		具体例を多く提示するなどして、抽象的なものをよく理解できるように授業にしていきたい。		

科目名:微分積分学Ⅰ

1	・自由意見 「(定期試験などを除き)毎回の授業で小テストがあったこと」			前回の授業内容に関する小テスト(ノートを見ることは許可しているが、教科書は許可しない)を授業開始直後に行っている。この小テストにより、(1)遅刻を減らす(2)授業への導入を学生に促すことを期待している。また、小テスト終了後に(Webを通じて)解答例を配布して、数学での文章の記述例を学生に提示している。さらに、(1)授業や授業外学習へのより積極的な参加を促す(2)成績評価における定期試験の重み(各学生の気持ちの上での重圧なども含む)を緩和することを狙って、小テストを成績評価の対象に加えている。	
2	・自由意見 「説明は口頭と併せて、すべて板書している」			板書と口頭説明が同時にならないように工夫するとよい。	
3	・自由意見 「配布したプリントがよかった」	毎講義の初めに重要ではあるが教科書に書いていない内容をプリントにまとめて配布していることが評価されている。			
4	・自由意見 「板書の早さを遅くしてほしい。たまに板書をとりながら説明を聞くという両立ができなかった」		板書量が多くなりそうな授業では、骨格のみを記載し、学生が記入する部分として空白を設けてある授業資料を(Webを通じて)配布するようにした。		
5	・自由意見 「ときどき声が通らないことがある」		なるべく学生さんの方を振り返りにしている。		

科目名:微分積分学Ⅱ					
1	・自由意見 「講義期間途中で行った小テストが、理解度の確認に役立った」				小テストに限らず、学生に自身の理解度を確認させる何らかの手立てを講じる必要がある。
2	・自由意見 「質問に丁寧に答えて下さった」		質問への丁寧な対応は続けていきたい。		
3	・自由意見 「黒板に向っている時間が長い」		板書と口頭説明が同時にならないように心がけている。		

科目名:入門線形代数学					
1	・自由意見 「授業最初に必ず前回の復習をしたこと」	特に文系が多い講義では、こちらが主導して復習をやることは重要である。			
2	・自由意見 「もう少しレベルを上げてほしい。進行速度も遅い」		アンケートでは同時に、易しくてよかった、進行速度が遅くてよかった、という意見もあり、レベルをどこに合わせるかが難しい。両方をバランスよく入れる工夫が必要である。		

科目名:入門微分積分学					
1	・自由意見 「毎回講義のレジュメの配布と宿題があったのがよかった」				ノートをうまくとれない学生もいるので、講義のレジュメを配布することにより講義の理解度は向上すると思われる。
2	・自由意見 「講義の進め方がよかった。説明が丁寧であった」	入門科目であるので、講義の進行や説明には十分に配慮した。			

科目名:物理学Ⅰ					
1	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 の評点が前回のアンケートより向上した。	授業中に行う簡単な実験、毎週のレポート課題が好評。しかし、授業の進め方が速い。	パワーポイントでの講義であるが、レジュメを配布し、復習等に利用できるように配慮。		毎回行う簡単な実験が学生に好評。またレポートにコメントして返却することも学生のやる気を引き出すという意見が複数あった。
2	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 の評点が前回のアンケートより向上した。	講義スライドをネット上にアップしたことが好評。しかし、スライドの文字が小さいなどの改善点が指摘された。	講義室のテレビも利用して講義を進める等学生の利便を図った。		授業で使った資料が pdf ファイルとしてダウンロードできることが学生に好評であった。
3	・質問項目 「教員の説明はわかりやすかった」 の評点が前回のアンケートより向上した。	板書が丁寧で、説明が分かりやすい。板書に時間がかかるため、授業時間が延びることが多く学生に不評だった。	授業時間内におさめるようにした。		一部(?)の学生にとってはスライドを使った講義より、板書での講義に好印象をもっている。
4	・質問項目 「黒板、教科書、プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 の評点が前回のアンケートより向上した。	アニメーション、動画、クイズ等を使い、授業を進めたことが評価。しかし、スライドの進め方が早すぎるという意見が複数あった。	動画等を用いて直観的に理解できるように工夫して授業を進めた。		アニメーション、動画、クイズ等は多くの学生に好評であった。

5	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言, 自主的学習, 作業など)を促した」	学生が, この講義の方針を十分に理解していないようである。	ガイダンスの際に, この講義の方針とその理由を, 時間をかけて詳しく説明する。		
6	・質問項目 「この授業1回(90分)のための予習・復習に費やした時間は平均( )であった」	学生が, この講義の方針を十分に理解していないようである。	ガイダンスの際に, この講義の方針とその理由を, 時間をかけて詳しく説明する。		
7	・自由意見 「期末試験のみでなく, 中間試験もあった方がよい」	1回の試験で成績評価しているため, 試験時間が足りないようである。	試験を2回行なうことは可能かも知れないので, 検討する。		
8	・自由意見 「テキストに書いていない部分の説明が良かった」	同様な意見が複数あったことから, 講義内容の中心をこの点においたことは, 妥当だったと考えられる。	この方針を理解していない学生も見られることから, 何度も説明する必要があると考えられる。		
9	・自由意見 「出席を評価して欲しい」	このような考えの学生を減らすことも講義の目的だが, 十分に理解していないようである。	ガイダンスの際に, この講義の方針とその理由を, 時間をかけて詳しく説明する。		
10	・自由意見 「教科書に間違いが多すぎる」	改訂版でかなり改善されていたが, まだ残っている。	発見した間違いを担当者に知らせる。	訂正表を配布してもらえると助かる。	

科目名: 物理学Ⅱ

1	・質問項目 「黒板, 教科書, プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 の評点が前回のアンケートより向上した。	講義スライドをネット上にアップ, 毎回のレポートが好評。板書も入れてほしいという複数の意見あり。また講義内容が難しいという意見もあり。	授業の最初に講義の目標を説明して, 理解を助けるようにした。	授業で使った資料が pdf ファイルとしてダウンロードできることが学生に好評であった。また授業の最初に講義の目標を説明することも好評であった。	
2	・質問項目 「教員の話し方は聞き取りやすかった」 「黒板, 教科書, プリントやAV機器等の使い方が効果的であった」 の評点が前回のアンケートより向上した。	授業は分かりやすかったが, 板書が早く, また文字も小さかった。	板書をやめ, パワーポイントを使った講義に変更して好評だったが, 進み方が早いという意見が複数あった。	授業をパワーポイントを使うようにすると, その資料をネットにアップしてほしいと学生の要望がでてくる。	
3	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言, 自主的学習, 作業など)を促した」 の評点が前回のアンケートより向上した。	板書での講義で分かりやすかった。また授業内容を pdf ファイルとしてネットにアップしたことが好評。しかし, 板書が読みにくい, 文字が小さい等の指摘が複数あり。また内容が難しいという指摘も複数あり。	毎回の授業の最初に前回の復習を行い, 理解の助けとした。	板書の講義では多くの学生が文字が読みづらい, 小さい等の問題を指摘する機会が多い。	
4	・自由意見 「授業中のテストで理解度が増えました」 「クイズで自分が理解に穴があるのもわかって良かった」 「クイズが授業内での理解を深めるのに効果的であった」 など	○ 選択式のクイズを採用した。 選択式のクイズを採用することで, 全員参加型の授業であることを強調させた。学生全員に手を挙げるように呼び掛けると, 仮に手を挙げない学生がいたとしても, 周りから刺激され, 答えなければいけないという意識を持たせることができる。これにより, 授業をしっかりと聞くようになり, その結		さまざまな工夫を行うことで, 手ごたえを感じた。特に, 70名という多くの学生を担当したにもかかわらず, 出席率(全15回授業)は平均95.1%であり, かつ, アンケート回答数は68名であったことは自分にとって自信になった。授業の進め方等, 一定の教育的成果を出せたものと考えられる。	

		<p>果、授業内容の理解度向上に繋がったものと考えられる。</p> <p>また、クイズ形式の採用は居眠りの防止にも繋がった。70人の学生の内、居眠りをしている学生はほとんどいなかった。</p> <p>一方で、教員側も学生の理解度を把握できるため、授業の進め方にフィードバックをかけることができた。</p> <p>○ 記述式のクイズを採用した。</p> <p>記述式にすることで、能動性を強化した。授業内容の理解度向上に繋がったと考えられる。</p> <p>学生が記述式クイズを回答している間、私自身、部屋中を歩き回った。これにより、学生とのコミュニケーションを図った。今回、「N2」という大きな教室(講堂)で行ったため、コミュニケーションが希薄になる。この問題を解決するための対策として大変効果的であった。また、理解不足の学生に対しては、直接指導した。これは学生全体の理解度の底上げに繋がった。</p> <p>一方で、教員側も直接学生の回答用紙を見ることができたため、学生の理解度をしっかり把握できた。これにより、説明不足があった場合には、授業内ですぐに対応できた。</p>		<p>今回の講義を通じて私自身が学んだことは、今後も活かし、より良い授業の実現に努めて行きたいと考えている。また、本資料が他授業の一助となれば幸いである。</p>	
5	<p>・自由意見 「スライド(アニメーション)」「動画や図が随所に使われていて視覚的にわかりやすかった」 「動画を用了」 「スライドや動画などが効果的に使われていて、理解の助けになった」 など</p>	<p>○ 動画や実演を示した。</p> <p>動画・実演を用了スライドを提示することで、理解度を向上させた。これにより、興味・関心を抱いてもらった。さらに、注意を引くことができたので、居眠りの防止にも繋がった。</p> <p>○ 身の回りの応用例を示した。</p> <p>授業で学んだことが、身の回りのものにどのように応用されていることを示し、興味・関心を抱いてもらった。</p>			
6	<p>・自由意見 「プリントを配ってくれるので復習しやすい。クイズの解答がのっているのも勉強しやすい」 「スライド」 「スライドがわかりやすく良かったです」</p>	<p>○ パワーポイント(PPT)方式を採用した。</p> <p>黒板やホワイトボードを使用すると、板書き作業(文章、式、図、ポンチ絵等の記載作業)で膨大な時間が費やされる。前もって、PPTを作成しておけば、上述の問題は回避できる。これにより、多くの知見を、時間を掛けて、丁寧にゆっくり、学生に伝</p>			

		<p>えることができる。</p> <p>○ プリントを配布した。</p> <p>PPTを用いた授業の場合、教員の板書時間がないため、授業のスピードは上がる。しかし、スピードが速いため、学生がノートを取れなくなることが懸念される。そこで、PPTを授業のプリントとして配布することにした。これにより、授業内容の理解も深まり、復習も容易にできる。</p>			
7	<p>・自由意見</p> <p>「大きな教室での授業だったがスクリーンを用いて見やすく先生の声の大きさもちょうど良くて良かった」</p> <p>「先生の持っているイメージをわかりやすく伝えようという姿勢がすばらしいと思った」</p> <p>「先生がとにかく丁寧で優しくかった」</p> <p>「熱意が伝わってきた」</p> <p>「作業量・説明が適切で大変理解しやすかった。授業のシラバスも明解で良かった」</p> <p>など</p>	<p>○ 授業開始前に、最初のスライドとして、学生へのコメントを提示した。</p> <p>前回提出してもらったクイズの回答用紙に、多くの同じ意見が寄せられた場合には、まとめてPPTに記載した。</p> <p>特定の学生のみならず、他の多くの学生に対しても、平等にしっかり対応していることを示した。</p> <p>○ 授業開始後すぐに、毎回シラバスを提示した。</p> <p>毎回、シラバスを示し、今自分がどこにいて、今回何を学ぶかを認識させた。全体像からの現在地を認識することはとても重要である。</p> <p>○ 前回のクイズの回答</p> <p>授業の初めの方で、前回のクイズの回答を示した。</p> <p>復習も兼ね、理解度の向上に繋がる。</p> <p>○ 最新の研究成果への応用</p> <p>授業で学んだことがいかに実際の研究に活かされているかを示した。</p> <p>○ わかりやすさの追求</p> <p>とにかく、学生に伝わらなければ、意味が無いので、わかりやすさを追求することを意識した。</p>			

科目名: 化学 I

1	<p>・質問項目全般</p> <p>半数以上の受講生が良かったと思う点について、残りの受講生には改善が必要と思われると感じる。前方に座っていた受講生には説明が届いたが、後方に座っていた受講生には説明が届かなかったのではないと思われる。</p>	<p>・良かった点: 講義内容が簡潔にまとめられた分かりやすい資料を使い、丁寧、かつ簡潔に説明をしていた点。</p> <p>・改善したほうが良いと思う点: 内容が難しすぎる。スライドを印刷・配布して欲しかった。マイクを使用して欲しい。</p>	<p>・マイクを使用して講義する。スライドの印刷・配布は受講生の人数を考えると対応しかねる。</p>	<p>・アニメーションを用いるなどして、要点が分かりやすい講義資料を作成すること。</p>	
2		<p>良かった点</p> <p>・演示実験が多くて具体的に内容がわかった。</p> <p>・講義資料の配付、その内容が明確</p> <p>・講義予定表の配布により、予習がし易い。</p>	<p>化学は実験の学問であるが故に、演示実験に関しては力を入れてきた。やり始めた9年前に比べて、実験の数も多くなり、講義の半分近くで関連の内容の実験を見せてきた。これにより、化学をおも</p>	<p>・化学については、可能であれば演示実験を2～3でも行った方が、学生の理解と興味を促すことになるかと思う。TAを上手く活用できれば良い。</p>	

		・説明が明快。	しろいと感じて、志す学生が増えてくれることを願って行ってきた。工学部の現所属にこのまま居続けるのであるならば、今年度からしばらくの間、化学Ⅱ(有機化学分野)を担当するであろう。無機化学・物理化学分野の化学Ⅰとは異なり、有機溶媒の使用など安全上の問題や反応時間や色の有無などで演示が困難になるが、できる限り組み入れるよう現在準備を行っている。		
3		改善すべき点 ・パワーポイントのみでは眠くなる。 ・数式が出てきたときに、文字の説明が示されていないものがあつた。 ・試験結果を返却して欲しい。	・上述のように今年度より化学Ⅱを担当し、しばらくの間化学Ⅰは担当しないと思われる。ゆえに、数式の数は激減すると思われるが、文字の説明はするよう準備している。 ・パワーポイントのみになるのは、教室のスクリーンの位置が関係する。黒板のサイドにスクリーンがある場合には、両者を併用している。これは、当たった教室の構造による。		

科目名:地球惑星科学Ⅰ

1	・自由意見 「プリントや説明が分かりやすかった」 ・質問項目 「黒板,教科書,プリントやAV機器等の使い方が効果的であつた」	教科書となっている図表を要約し,プリントとして配布している点。	今年も,プリント作成は継続している。	要約プリントは他の教員にも勧められる。実際,学生はプリント学習により,効率的な試験勉強が出来る。	
2	・自由意見 「課題がもう少しほしい」 ・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言,自主的学習,作業など)を促した」	課題を増やす。	今年度は,4回の課題演習を実施し,その後課題について質問があつたので,学生の評価は良かったと思われる。		
3	・自由意見 「スライド中の図表のページ数と実際のページ数の不一致」		今回新たに改訂された図表の項目とプリントの項目を合わせた。		
4	・質問項目 「教員の説明はわかりやすかった」 ・質問項目 「教員の話し方は聞き取りやすかった」	説明が分かりにくいこと。	今後,1年生の授業と割りきって,難しい説明はやめる。教えることを選択して,余裕をもった授業を行う。そうすれば,ゆっくり話すことが出来る。		
5	・自由意見 「板書が見にくい,黒板を使う時は電気をつける」 ・質問項目 「黒板,教科書,プリントやAV機器等の使い方が効果的であつた」	板書が見にくいこと	面倒でもTAに電気係をお願いする。		
6	・自由意見 「大会があるのに追試がない。理解がない」	改善の必要はない			

全学教育科目に係る授業アンケート結果に関する報告書

【日本語Ⅰ／Ⅱ／Ⅲ／Ⅳ及び日本事情】

	質問項目または学生の自由意見の概略	①授業でよかった点や評価された点、また改善した方がよいと思われる点	②①を受けて自分自身で取り込もうと計画していることや、すでに実施したこと	③高い評価を得た質問項目から、他の教員の授業改善の参考になると見込まれる事項	備考
1	・質問項目 「教員は学生の質問・発言等に適切に対応した」	説明がわかりやすいことは重要である。授業では一度説明を聞いて分からなかったが、質問したら分かるように答えてもらったという点に満足感を見いだしていると思量される。	説明を、一回しただけで学習者に理解してもらえようさらに工夫を重ねることを心がけるが、それでも理解には深淺が生じるので、質問に対する回答を的確にできるよう現在の方針を徹底する。	学習者からの質問を想定し、どのような質問に対しても的確に回答ができて、学習者が理解できなかった点をフォローアップできるようにしておく。	
2	・質問項目 「授業により知的に刺激され、さらに深く勉強したくなった」	履修終了後、日本語の学習・自習をさらに続けていくためにどのような方法や機会があるのか情報を特に与えてこなかった。ただ、見方によっては、この授業を受けることで学習者の学習継続意欲が高まったとも解釈できる。	参考書・学習法・学習機会を最後のクラスで提示する。	さらに学習を深めるための文献情報・ウェブサイト・外部リソースの情報収集・提供準備が必要である。	
3	・質問項目 「授業は全体として満足できるものであった」	自由記述覧を見ると、「宿題・課題が少なかった」という意見が複数見られるが、他方、「授業時間帯を1講時から3講時にしてほしい」、あるいは「授業時間が長すぎる」などの甘ったれた意見も複数あり、意欲の高い学生と意欲の低い学生の双方で相反する方向の不満があったことが窺える。	宿題・課題の回数を増やす、或いは要求度を上げることで意欲の高い学生の要望に対応したい。ただ、作文を含む授業のため添削の手間を考えると限界がある。また、自由記述覧では学生にもっと厳しくしてほしいという意見があったため消極的な学生には授業の趣旨を徹底させて厳しく臨みたい。	意欲の高い学習者の向学心をそがないように留意する必要がある。意欲の低い学生は、他の授業でも同様の記述を書いていると推察されるので、このような学生に対する対応は個別授業の問題ではなく、そのような学生を排除できる厳格な入試選抜体制の構築にあると思量する。	
4	・質問項目 「教員の話し方は聞き取りやすかった」	受講者が留学生ということもあるがわかりやすく、間違い・いいよどみのない発話を心がけている。	左記の対応を継続する。	内容・順序のみならず、一文の従属節の数を考え、コンパクトな文を作り、接続詞を適切に使うことが望ましい。	
5	・自由意見 「先生がよくアイコンタクトするので、北大ではなかなか特別なことだと思う」	学習者の反応を見る意味でもアイコンタクトは必要。ただ、同じ学生ばかり見過ぎないう神経は使う。	左記の対応を継続する。	アイコンタクトの点から考えるとパワーポイントは最悪。スクリーンばかり見るか、PCのディスプレイばかり見るか、になってしまう。	
6	・質問項目 「シラバスは、授業の目標、内容、評価方法を明快に示していた」 「授業はシラバスに沿って行われていた」 ・自由意見 「シラバスに沿って行われ、予習や復習をしやすかった」	各科目とも週2日の授業のうち、日本語Ⅰは一日だけ教科書を使用、日本語Ⅱと日本語Ⅲは両日とも教科書使用、日本語Ⅳは教科書無しで授業を行ったが、シラバスに教科書の各課の進捗表を掲載して予習の便を図ったはずの日本語Ⅱ、日本語Ⅲでシラバス関連の評価が低くなっているのは解釈不能である。	理由が不明なので対応が考えられないが、今後シラバスに教科書の課だけでなく、各課で扱う学習項目も記載することで授業内容の可視性を高める工夫をすることを考えている。	週2回とも教科書を使用した授業の評価が低い理由が分からない。強いて言えば、やや教科書に寄りかかりすぎたかもしれない。教科書(「を」でなく)「で」教えることが必要。	
7	・質問項目 「教員は効果的に学生の参加(発言、自主的学習、作業など)を促した」	少人数クラスのほうが学習者が能動的に学習したことが窺える(当然であるが)。多人数クラスでもある程度ペアワーク、グループディスカッション	アクティブラーニングをより一層導入することを考えているが、既存の日本語教科書がアクティブラーニングを想定して作られていない。アクティブ	少人数クラスの方が学習者の反応がより能動的なので、大人数クラスでも小集団によるALを積極的に採用するように工夫する。ただ、教科書	

		ン、個人作業など活動をさせたが、やはり少人数クラスの 小回りの良さにはかなわない ようである。	ラーニングをしやすい教科書 に切り替えるか、自分で教科 書を作るしかない(が余力が ない)。	を使うとなると、左記のように 教科書がALを想定してい ないのが難点。	
8	「日本事情」について	「見学・プレゼンなどとても充 実した内容でした。」「色々 なところに見学して面白かつ たです。」「見学がすごく良 かったです。」から見ると、授 業で取り上げた三つのテーマ ごとに施設見学を3回行った ことが高く評価されているのが 分かる。改善意見としても 「もっと様々なところに見学を しに行きたい」という自由記 述があり、座学にとどまらない 内容が強く望まれている。	左記の対応を継続する。	今回の授業の見学3回のう ち2回が学内施設の見学で あった。「見学」というと外部に 遠出するイメージがあるかもし れないが、北大には学内見 学に適した施設が数多くあ るので、各部署と連携しなが ら北大のリソースを活かせば、 座学と見学を組み合わせた 有効な授業が展開できるは ずである。	